

「海の豊かさを守ろう」を目指した活動の取り組みについて

公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団 新潟市水族館マリニピア日本海



年間を通しての海岸清掃への取り組み

公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団(新潟市水族館マリニピア日本海)では、SDGs ゴール 14「海の豊かさを守ろう」を目指し、活動に取り組んでいます。

財団では、月に1回 近隣の海岸を清掃するボランティア活動を行っています。砂浜に捨てられたごみが海に流れていかないよう、海から流れてきたごみが再度海に流れていかないようにすることで海の環境を守る事に

貢献をしています。

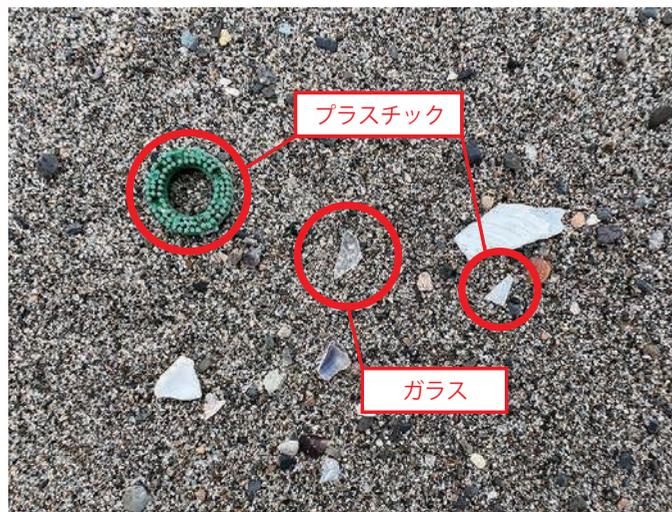
また、プラスチック製品は劣化して砕けるとマイクロプラスチックになります。砂浜にごみを長期間放置しないことで新たなマイクロプラスチックの発生を防止しています。

海の環境を守る活動は、海に生息する生き物を守ることにもなるので、職員の環境に対する意識を高めることにつながります。

海岸清掃の様子



砂・貝殻に混じる細かいプラスチックやガラス



1回の海岸清掃で集まったごみ



私たちの生活と海洋ごみについて

新潟市水族館近くの海岸で2023年3月に「海辺の漂着物探索」を行いました。参加者と漂着物を集めて調べ、その由来や問題について知るプログラムです。集まったものの多くはプラスチック製品、ペットボトルや缶、漁具などの人工物でした。多数を占めたプラスチックは食品や生活に関係したものの割合も多く、海洋プラスチックゴミの発生源について考えさせられる結果でした。

また、砂に混ざった小さな漂着物を集める体験を通し、砕けた微小プラスチックの回収の難しさをお伝えしました。

プラスチックは生物の誤飲といった問題以外にも、微小プラスチックによる生態系への影響が深刻です。身近な素材が環境へ与える問題について、体験的に伝えることができました。

漂着物を集める様子



漂着物調査について



海洋プラスチックゴミ問題の紹介

- ・分別やリサイクルが難しい
- ・分解されずに残る
- ・軽いため風や海流で運ばれやすい
- ・処理の経済的な負担
- ・生き物への影響



漂流ゴミ



外来種の拡散



オサガメの胃から発見されたプラスチックゴミ



漁網

取り組みの成果

身近なものや離れた場所のつながりを体験的に知り、あわせて環境へ与える影響をお伝えしたことで、「海の豊かさを守ろう」を目指した活動の取り組みとして、参加された方の環境に対する意識を高めることにつながる大きな効果があったと評価しています。